

# 市長室：対話の記録

## 要旨

## 開催内容の公開

- ・市長あいさつ
- ・内容
- ・市長終わりのあいさつ

第 17 回目となる今回は、男女共同参画社会の形成のために市民の意識啓等を図る事業として市主催で開催している平成19年度「男女共同参画塾」に参加された方々と男女共同参画の視点からまちづくりについて対話、意見交換を行いました。



日時	平成 19 年 10 月 25 日(木) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 10 分
場所	旭川市ときわ市民ホール 2階 201・202(旭川市5条通4丁目)
相手団体	平成 19 年度男女共同参画塾参加者 20 名
出席者	<b>旭川市長 西川将人</b> 平成 19 年度男女共同参画塾参加者 20 名(敬称略) 足立 清人 伊藤 勝治 今川 知穂 潮 まどか 岡本 千晴 勝浦 恭子 上村 信子 木元 靖子 北内 亜衣子 佐々木 綾 竹田 貴治 長谷川 威 畠山 玲 林 朋子 原田 暁美 日向 峰子 松本 真一郎 松山 卓馬 山崎 晃弘 吉野 郁未

## 対話の内容

以下、参加者の皆様については、敬称を省略させていただきます。

### 市長はじめのあいさつ

みなさん、こんばんは。市長の西川です。

本日は男女共同参画塾の参加者のみなさん、また旭川大学の若い学生さんたちにも大勢参加いただきありがとうございます。

今日は、日頃、男女共同参画について勉強されておられるみなさんのいろいろなご意見をお聞かせ願えればと思っております。

今、「We are (ウィアー)」(旭川市男女共同参画情報誌)を読んでいたのですが、国会の女性議員の数が、日本では480人のうち45人で9.4%なのですが、スウェーデンでは349人のうち165人ですから、約半分が女性なんですね。こういうのを見ると歴然と、やはり社会が違うんだなど実感せざるを得ないですね。

例えば、旭川市内における女性管理職の割合はというと、部長職が6.5%、課長職が6.6%、係長職が11.3%となっており、女性登用は十分とは言えない状況にあるものと思っております。おそらくスウェーデンではこの数字も半々だろうと思います。そういった部分でいろいろご意見をいただきながら、私たちの行政、旭川のまちづくりをしていけたらなど、また行政だけでなく、民間の企業のみなさんや地域の社会の中で、ぜひ具体的な動きとしてもっともっと広げていくことができばなと思っております。今日は本当に大学生のみなさんも大勢参加していただいておりますので、若い視点からの意見も聴かせてもらえたらありがたいと思っておりますので、よろしく願います。



旭川市でも、平成15年に「男女平等を実現し男女共同参画を推進する条例」を制定し、様々な取組を行っているところであります。これは社会の流れでもあり、積極的に推進しなければならないのですが、いわゆる「男は仕事に出て、女性は家を守る」という考え方は、未だにどこか心の奥にあるのではないかと思っております。

そうした考えを少しでもなくしていくためにも、そうした差別をなくし、男女共同参画ということを啓発していくことが重要であると思っております。

今日は、みなさんとお話を通じて、男女共同参画についての理解を深めたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。以上簡単ですけど、冒頭にあたりまして私からのあいさつにかえさせていただきます。

### 勝浦

私は勝浦恭子と申します。コピーライターをしております、「We are (ウィアー)」で取材をさせていただいたかと思いますが、今日はよろしくお願いいたします。

今回、集まったメンバーは、今年度の男女共同参画塾の参加者です。参画塾は今年度、3回行われまして、私自身は3回目のコーディネーターを務めさせていただきました。私も過去の参画塾に何度も受講させていただきましたが、ご覧のように今年度は非常に若い方が多く、とても嬉しく思っております。また若い頃から男女共同参画の推進の現状に関心を持ったり、意識を高めたりということは、非常に必要ではないかと思っております。今年度の参画塾は、若い方が多かったこともありますし、一方的に講師のお話を聞くだけではなく、参加者からも積極的に発言していくというワークショップ形式で行われたので、とてもみなさんとの交流も深まりましたし、そういった面でもとても有意義でした。

この度、参画塾に参加したみなさんが受講して学んだことや気が付かされたことを、何らかの形でまちづくりに活かしていきたいということでOB会、OG会を設けることになり、ここにいるメンバーが集まり、事前に会合を持ったのですが、ぜひ市長にいろいろなお話を聞いていただきたいということで、とても活発な意見が出ました。今日も若い人を中心にいろいろなお話が出ると思いますが、いろいろと学んだことや気が付かされたこと、またまちづくりにおいても、男女共同参画の視点を持つということが大変重要なことだといろいろな形で気が付かされたと思いますので、3回の参画塾を通してみなさんが感じたことや気が付かされたことを市長に聞いていただき、またまちづくりのリーダーとしての市長のご意見もお聞きできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

先日、皆で集まった時にまちの課題や市長にお聞きしたいことなど自由に意見を出し合いました。その時の話に沿ってみなさんに発言していただきたいと思います。若い方が多いということをも市長もお話になっていましたので、参画塾を受講した感想を畠山君から話していただこうと思います。

### 畠山

旭川大学3年の畠山玲と申します。よろしくお願いします。

今日は私を含めて旭川大学の学生が8名参加しているのですが、参画塾に参加した感想の前に、私たちがなぜ男女共同参画塾に参加することになったかを簡単にお話させていただきますと思います。

私は大学に入学してすぐに北海道が発行している「ともろう for Men」という男女共同参画情報誌のセクシャルハラスメントの記事を読みました。私がある民法のゼミは、先生がユニークな方で、「机上の理論だけではなく実践で」ということで、勉強もするのですが、フィールドワークと言いますか、実際に活動してみようということで、その一つとして自分たちで旭川大学のセクシャルハラスメントのガイドラインを作ろうということになり、「ともろう for Men」や旭川市が発行している「We are」などを参考に、いろいろ勉強していたのですが、直接お話を伺いしようということで男女共同参画推進課を取材して、ガイドラインの案をまとめました。今、ガイドラインの方は大学側と検討中なのですが、その間にセクシャルハラスメント防止のためにはどうすればいいかということで、男女共同参画の推進という助言をいただき、それで男女共同参画の推進にも視野を広げてゼミ活動を行ってこうということになり、インターネットや本などで調べて勉強する中、旭川市で男女共同参画塾が開かれているということを知り、他の学生を誘い参加しました。私は3回行われた参画塾の第1回目と第3回目に参加させていただきましたが、普段、幅広い年代の方と会うことがないので、いろいろな方々に出会って対話をするということは非常に大切なことだと実感しました。男女共同参画について、インターネットなどで勉強はしたのですが、実際に社会に出て現場を見たことがなかったので、直接働いている女性の声などを聞き、身近な問題なんだと、より考えさせられることがたくさんありました。また、参画塾に参加しての意識の変化ですが、直接参画塾に足を運んでみて、いろいろな方と直接ふれあってお話することがまず初めの一歩だと感じました。私自身は今年度の旭川市男女共同参画審議会の委員に公募し選んでいただいたので、もっと勉強をして少しでも旭川市のまちづくりのために役に立てればよいと考えております。また若い世代の意見というのも強みであると思いますし、参画塾などに参加して男女共同参画推進という女性が中心で活動しがちになっているということ私は感じたので、貴重な男性側の意見として男女平等へというように進めて行きたいと考えております。

### 市長

私も男女平等というところで日頃よく思う部分があるのですが、母子家庭にはいろいろな手当があるのですが、父子家庭には手当がないんですね。この話は全国市長会でも議論になっていて、男女共同参画社会の実現という部分について、父子家庭に対しても同じくいろいろな助成をするべきではないかという話が出ていました。今まではそういう価値観ではなかったのですが、「父子家庭へも」というような価値観が徐々に出てきているの

かなと思います。これがまた法律などで変わっていくのは、まだしばらくかかりそうな感じはしますが、そういう意識も日本の中に出てきているような気はしますね。まだ他にもいろいろとあるのかなと思います。何かあったら、またそれは男性の立場からも「女性の方が優位ではないか」というようなことも言ってもらったらよいのかも知れないですね。

### 畠山

男女共同参画と聞くと、女性の仕事の環境を良くしようとか、女性の保護という印象が強いですが、男性も育児休業を取得しなければならないですとか、それぞれのライフスタイルに合わせた制度というのが必要になってくるのではないかなと思います。非難ではないですが、男性ばかりがそういうふうに見られがちなので、どちらとも自分の生活スタイルを続けていけるような、周りがサポートできるような制度を作らなければならないかなと感じました。

### 市長

私も今後そのような流れがどんどん増えていくのかなと思います。

### 原田

専業主婦の原田です。

昨年の夏にやむを得ない事情から仕事を辞めることになり、新たな人間関係を求めて広報誌を見ながら参加できるものをいろいろチェックして、いくつかのボランティアや公民館の催し物に参加してきました。その中でいろいろと気付くことができました。私の個人的な考えですから公にはおかしと思うこともあるかもしれませんが、公民館で旭川大学の出前講座を受けた時、旭川大学の谷口先生から、暮らしやすいまちには3つの原則があり、一つ目が衣食住が満ち足りているかどうかということ、二つ目が人間関係を築けるかどうか、三つ目に自分が成長できる場であるかどうかのこの3つが大事だというお話がありました。そして先生の試算では、このままだと旭川は2,050年には22万人に人口が減るだろうという話を聞きまして、旭川で生まれ育った私にはとてもショックでした。

また、ボランティアの方々はそれぞれ頑張っているのですが、意外と横のつながりはなく、もっとボランティアネットワークのようなものがあって、それぞれ助け合えれば良いと思います。ボランティアの方々の中には、私のように転勤で旭川にいらっしゃった方、ご主人の転勤でやむを得ず何年も住むことになった方が多いのですが、そのボランティアによっては、長く住めない人は門前払いだったり、面接が必要なボランティアもあり、もう少し間口が広くてもいいなと思うことができました。

ある60歳代の女性のボランティアの方で旦那さんが亡くなって独身になり、仕事を辞めて旭川に帰ってきた方が2人いまして、一人は東京に実家があっても、お友達がいるからと以前住んでいたことがある旭川に戻っていらしたんですね。ですから旭川でよりよい人間関係を築くことができれば、またその方達が帰ってくるようなまちにできるというようなことも感じました。

まちづくりに参加して、私の子どもの世代である大学生のみなさん方や、親の世代の方などいろいろな方とお話しできたことが本当に楽しく、できれば勉強になったことをボランティアの場に活かして、私の友達などに広めて、もっとつながりをもっていけたらなと思っています。

### 市長

原田さんはどういうボランティアをしているのですか。

### 原田

サイパル、食生活推進改善委員、国際交流ボランティア、日韓交流ボランティア、井上靖記念館など全部で7つ関わっています。

### 市長

ありがとうございます。採用時に面接があるというボランティアはありましたか。

### 原田

北海道立旭川美術館です。私は面接があると聞いた時点で行くのはやめました。美術館はボランティアが曜日ごとに決められていて、その曜日の9時半から4時半までびっしりいなければいけなくて、お休みは原則認められないと言われました。なおかつ人数が決まってるから新たな人はほとんど入れないし、新たな方をいれる場合には面接をされると言われました。その長い時間拘束するという間口の狭さは、他の人をいれない感じで、私の若い友達の何人もがあまりにも恐くてやめたと話していました。

### 市長

もう少し人数を増やして、短い時間で交代できるようにした方がボランティアとして参加しやすいですね。

### 原田

そうなのですが、失礼ですけれども、長い間同じボランティアの方がいるところはそういうことが多々あるような気がします。

### 市長

わかりました。市の方でちょっと気に留めて、なるべく多くの方に参加していただけるようにやっていきたいと思えます。美術館は道の施設ですが、また機会があればいろいろ意見交換などを道ともさせていただけたらと思えます。

### 日向

昨年6月に夫を亡くしましたが、その時に地域の福祉というものについて、これはちょっとひどいんじゃないかなとか、こういう行動はセクハラにあたるんじゃないかと思ひ、すぐ自分の中で葛藤がありまして、それについて勉強しなければいけないと感じまして、パソコンで男女共同参画について調べたら、まちづくりをテーマに参画塾を開くということを知ったので参加させていただきました。その中で感じたことは自分の視野の狭さ、またいろいろな事に不満はあるんですけども、私たち母子家庭だけではなく、突然不幸に見舞われた人間をフォローできるような福祉の体制にはなっていないのではないかと感じました。私の場合は夫が残してくれたものがあり、また私が働けますから生活は十分できるので、生活保護に頼ることはないのですが、夫が何も残さず亡くなっていた場合、きっとそのような形になっていくのではないかと思います。それで私はセクハラのようなことを感じたので、もっともこの参画塾と関わりながらセクハラの勉強がしたいなと思ひます。

### 市長

大変いろいろなことがあったんですね。そういうことが無いようにしなければならないと思ひます。

### 足立

旭川大学で教員をしている足立と申します。私も2年半前に東京から来ました。私は3回全ての参画塾に参加させていただきました。3回共通して地域のコミュニティが壊れているという意見が非常に多かったです。そこからごみの問題や地域の安全の問題など、いろいろな問題に派生して話し合いました。

地域のコミュニティが壊れている一因として、男性の関わりが少ないという意見がありました。それは突き詰めてみると、男女共同参画社会という、女性の登用の問題もあるのですが、究極で考えると、男の在り方、生き方、働き方に問題があるのではないかと、そういう部分から見直さなければならないという問題提起がありました。地域のコミュニティを

支えてるのは女性で、男性は働き方として会社で働いて、特に旭川は経済状況が悪いので、働かせるだけ働かされてしまうわけです。また男性の男女共同参画の意識が低い部分があり、また男性が仕事などの関係で地域に入っていけないということがあると思います。地域のコミュニティというのは、ボランティア、NPO等です。昔であれば隣近所は本当に三軒隣まで友達というような感じだったと思うのですが、隣近所との関係もだんだんと希薄になってきて、そういう部分に男性がなかなか入っていけないということがあると思うので、やはり男性の働き方、生き方を変えないといけないということもありますから、旭川にとって、地域にとって大切な問題だと思えます。

そこで市長にお聞きしますが、先日「We are」にも市長の考え方が載っていましたが、男の在り方、生き方、働き方について、市長のお考えなどがあれば簡単にお話ししていただきたいということと、あとコミュニティに男性が入っていけるようになるための啓蒙活動等を何か考えていらっしゃるのであればその辺の所をお伺いしたいと思えます。

### 市長

私も今のお話しをお聞きして、コミュニティに男性がなかなか入り込んでいけないという部分については、そうなんだとある面認識させてもらったという感じなんですよね。今ご質問いただいた、男の在り方、生き方、働き方についての私なりの思いですが、非常に難しいです。在り方、生き方、働き方という部分はある面共通しているようですが、働き方という部分は少し違う異質なものだというように思います。仕事とプライベートの両方なんでしょうね。今までは働くために生きてきたという日本人が多いと思うのですが、欧米では昔からそうなのかも知れませんが、人生を楽しむために、また余暇を楽しむために働くという考え方が非常に日本でも増えてきているのかなと思います。そのようになってくると、自分の自由になる時間をいろいろと使えるようになるのかなという感じがします。そうはいいながらも、今、市長という仕事をさせていただいている中で、実際2か月に1日しか休みがないんですね。そういう意味では自分の人生全てが仕事のようになっているのですが、仕事が趣味みたいな部分もあるんですよ。結局、好きでなければできないのですが、そう言われてみたら今、私は家庭を顧みない仕事人間のようになっているかも知れないので、妻は非常に寂しい思いをしているかも知れませんが、市長という立場、役割なのでそれはそれで納得をして私自身も妻もやっているつもりではいますが、60歳になるのか70歳になるのかわからないですけども、仕事もしなくてもいい歳になったら、思い切りいろいろなことしたいという夢はどんどん膨らんでいます。

いろいろな生き方、在り方があるとは思いますが、それぞれの人生の目標を常に持って生きていけば、仕事尽くしであっても、またうまく仕事と余暇のバランスをうまくとれる仕事に就いている方も、生き生きとできるのではないかなと思いますよね。旭川の場合、中小企業と呼ばれるところが多いものですから、なかなか休みも取りづらい部分がありますけれども、東京の大企業はお休みもたくさん取れますし、私が日本航空でパイロットをしていた時は本当に休みが多く、月のうち10日は休みでしたし、その他に20日間の有給休暇もありましたし、飛行機は無料でしたので、その時は10年分ぐらい人生をエンジョイしたのではないかなと思います。またそれも職種職種なんですよ。今は忙しいですが、目的を持ってすごく充実してやっていますので、私はそういう在り方で生きたいなと思っています。そのために男性がコミュニティに入り込む啓蒙活動は、本当に大事になるんでしょうね。私も具体的にどのような方法が良いのかなというのは、今すぐはわからないですけども。

### 足立

旭川の経済状況を考えるとなかなか難しいかもしれませんが、市役所自体で、「ワーク・ライフ・バランス」といって、仕事も家庭も自分の趣味も全部尊重した形でやっていく、市役所自体でそのような取組を積極的に行くと、旭川市は道北地域の象徴みたいなものですからそこから波及していくのではないかなと思います。

また、市の職員が地域に出て行くということも、一つの方法ではないかという気がしま

す。やはりその辺は市長がリーダーシップを持って、ポリティカルウィル(政治的意思)が大切ですから、改革してほしいと思います。

### 山崎

旭川大学3年の山崎と申します。よろしく申し上げます。

今、コミュニティというお話が出てたので、私なりにコミュニティについて思ったことをお話させていただきます。私の中で二つキーワードがありまして一つはニート、もう一つは高齢者ということなのですが、まずニートについてです。私は21歳なのですが、友達にもニートが多く、具体的な数字は把握していませんが、とてもニートが多いという印象を受けます。ニートの中にも働く場所がないという人や、働く気がないという人もいます。このニートをうまく使えたらなと思っています。普段は家などにおいて時間を持て余しているわけなので、地域の中で上手になにかできたらなというように思います。

### 市長

そのニートになる人というのは多分問題を自分の中に抱えていて、社会になかなか出られない、出たくないというのがあって、そういう人たちをどうやって社会に出てもらうように誘導していくかということなんですね。どういうふうにしたら良いと思いますか。

### 山崎

それが二つ目の高齢者というキーワードにつながっていくのですが、コミュニティというのは人と人のつながりだと思えますね。高齢社会というぐらいですから高齢者の方が多いと思えますよ。例えば昔は知らない人の子どもでも叱ることができたという話を聞きましたが、最近では子どもを避けているようなことが多く見られると思います。このような人と人のつながりが薄い状況も若者のニートの多発につながっていると思いますし、高齢者と若者のつながりが薄いために、うまく社会に入っていけない、そういう点も問題になっていると思えます。

高齢者についてももうひとつ思ったのが、最近インターネットの普及でパソコンや携帯電話などですぐに情報が得られる時代になっていますが、高齢者の方はパソコンや携帯電話を使い慣れていないというか、手が付けられないような印象を受けます。ですから情報を得る手段として、テレビのニュースや新聞と同じように、高齢者の方にパソコンや携帯電話を使えるような「使い方講座」のようなものができたら面白いのかなと思います。

### 市長

子どもを叱らないという部分ですが、買物公園にたくさん停めてある自転車を整理したり、監視しているシルバー人材センターの方などがいますよね。買物公園では自転車に乗ってはいけないということは知っていますよね。私が中学校の時、そのことを知らなくて自転車で走っていたら、おじいさんに止められてげんこつをされたことがあって、シルバー人材センターの方かどうかはわかりませんが結構恐かったですね。最近はやってないらしくて、「何でやっていないんですか」と聞いたところ、「逆に刺されるかもしれない」だとかそういう不安があるというんですね。結局、大都会でも誰かいじめられていても知らないふりをして素通りしていくとか、関わったら自分に危害が加わるんじゃないとか、そのような風潮があるのかも知れないですけども、そこで勇気を持って悪いことをしていたら叱ったり、止めるなどの、その第一歩が大事なんじゃないかな。その時には反撃されてもいのように、格闘技を心得ていなければならないのじゃないかな、そういう矛盾になっているような気がします。

また、高齢者と若者の接点が少なくなった一番の原因は、祖父母と孫と一緒に住まなくなっているのが大きいと思えますね。昔は大家族で、祖父母と父母と孫と一緒に暮らしていたと思いますが、今は核家族になっているというのが要因の一つになっている気がします。

高齢者の方々にも、いろいろパソコンも含めて積極的に参加してもらえようお手伝

いは、市としてもしなくてはならないと思っています。

#### 上村

今、市長がニートにもいろいろな事情があるんだらうけれどもとおっしゃっていましたが、市長はどんな事情でニートがいると思いますか。

#### 市長

例えばですね、何か大きな挫折を経験して、その恐怖感から社会に出て行こうという気力を失っているという場合ももしかしたらあるかもしれないですし、そういう場合は逆にニートというか、精神的にうつ的な状態になって引きこもりになっている場合ももしかしたらあるのかもしれないですね。それと小さい頃からの家庭環境で、両親が甘やかして育ててきて、例えば本来であれば仕事をしなければ食べていけない年齢に子どもがなっているのに、両親が子どもが30歳になっても40歳になっても食べさせるなど、そうやっている、もしかしたらそういう大人ができてくるのかもしれないというのはあるかもしれないです。

#### 上村

今おっしゃったのを聞くと、個人やその家庭に問題があるという考え方ということですか。

#### 市長

そのような場合もあると思います。その個人、家庭というのもすべて今の社会のシステムからきているという気はします。一つは非常に社会が複雑化してきていることと、画一の価値観をすべての国民に押しつけて、その価値観からはずれた人は、社会でなかなか価値観を見い出せないような社会情勢ということがあって、それが好きな人は良いけれど、そういうことに興味を持たない人にとっては、全く自分の居場所がなくなってしまうようなことは社会的な問題としてあるかもしれないですね。社会問題を解決していくというのは非常に難しいと思います。いろいろなタイプのニートがいるのかなというのはありますね。

#### 勝浦

若い方が周りにニートが多いっていうのも人ごとではないなと思いますが、一方で先ほど市長がおっしゃったような、日本航空のような大企業は社員を大事にした待遇だと思いますが、旭川の場合はなんといっても中小零細企業ですよ。だから今、足立さんが「男の人の働き方」と言いましたが、本当に6時半にある会合に出席できるような就業状態の人は、とても少ないと思います。私の周りでも遅くまで働いていますし、そういう働き方をせざるを得ない部分はあると思います。また育児休業も取りづらく、東京の大手企業では6時になったら帰らないと罰するというくらいのいろいろな対策を取っていると思いますが、ぜひ旭川市として、圧倒的に多い中小零細企業に育児休業を取りやすいような支援をしていただきたいと思います。まだ行政の中でも取りづらくと思いますが、民間の中小零細企業では、何らかの補てんをするようなことがないと、会社自体が大変だと思います。

旭川市に移住してきた人に取材をしていますが、あえて東京の大手企業を辞めて、旭川で自分らしく生きたいという人がいることを考えると、旭川は仕事と家庭生活のバランスが取れる暮らしができれば、すごく住みやすいまちだと思います。東京ほどの高収入はなくても、それなりに豊かに暮らしていけるという可能性がすごくありますので、旭川市にはぜひ地場産業などいろいろな形で力をつけてもらいたいと思いますし、もう少し余裕のある働き方ができるような対策を講じるようなことができれば、もっと市民のみなさんが生き生きとできるのではないかと思います。



### 市長

市役所では、育児休業の取得について男性職員にも呼びかけているのですが、男性職員で取得した人はまだ一人しかいません。市役所だけでなく、これをどうやって民間に広げていくかということは大きな課題ですね。すごく問題意識は持っています。すぐ方策がみつからないのは非常に申し訳ないと思っております。

### 足立

市の人事評価についてはどうなっているのかわかりませんが、例えば企業などで人事評価をするにあたっては、個人個人が「ワーク・ライフ・バランス」を実現しているかを人事評価の一つのポイントとしていると思います。

また、地域企業を男女共同参画の視点をいれて評価していくというのはどうでしょうか。例えば、公共事業の発注時に受注する企業が男女共同参画を推進しているかどうかをチェック・ポイントの一つにしておけば、企業としてもそういう条件があるのであれば、やはり取り入れていくということもあると思います。

### 市長

日本全国が一斉に人事評価でそれを取り入れるとなればできると思います。一部の企業だけが取り入れて、他の企業が取り入れないと、取り入れた企業が競争で負けてしまって経営が悪化すると思います。日本全国一斉にやるということになればできると思いますが、足並みを揃えるのはなかなか難しいと思いますね。

### 足立

旭川が引っ張っていてもいいと思います。道北の中心地ですから。

これでうまくいったら、先ほど勝浦さんが言ったように住みやすいまちとして旭川をアピールできると思います。

### 勝浦

人事評価というのは、行政が企業に対して、どういう様な就業形態をとっているかということの評価するのですか。

### 足立

それはもちろんありますし、市役所の職員一人一人の、例えば育児休業はきちんと取れている、地域への貢献はきちんとできているなどをチェックポイントとして、そういうことをきちんとやっている人は、ポイントが高いなど、人事評価の中にそのような視点もあっていいのかと思いますし、そういうことを市役所が取り入れれば波及していくのかと思います。

### 市長

地域への貢献度を人事評価に取り入れるというのは、実はいろいろな人から話がありまして、私どももそういう事ができないかなと若干検討はしています。仕事から離れてから地域活動をどれだけしているか、人間全体の相互評価につながっていくような気がします。

### 勝浦

そうですね。ただ、旭川で市役所が率先して、それが一般企業へ浸透するかというと、今の現状では多分浸透しないと思います。そこまでの余裕がないから、現実問題としては違った方策を考えなければならないと思います。

### 市長

ドイツは敬けんなクリスチャンの国で、昔は日曜日は教会に行く日なので仕事をしては駄目で、日曜日に仕事したら罰則があったんですね。お店も全て日曜日は休みで、買い物にも行けないような感じで、仕事も4時以降は仕事したら駄目だとか、ひと昔前までは

そうだったそうです。そのような精神的な支柱が日本人にあるとすごく楽になりますよね。そういうのが日本にはないんですよね。本当に難しい話ですよね。

### 竹田

多分癒しということなのかなと感じました。今、市長が言われたように、宗教の問題だったり、宗教がポピュラーじゃないから、今の宗教に参加したくない。

先ほど話を聞いていた感じでは、ボランティアというのがキーワードかなと思ったのですが、社会的格差で、ボランティアに参加できる人間と、参加できない人間がいたりするので、そこをなんとかボランティアをやっている人に優遇できるようなものがあればと思いますね。例えば仕事がすごく忙しくて、町内会活動に参加できない人とかがほとんどなんですよ。

### 市長

町内会の役員をやっている人は、皆退職されてる人がほとんどなんですよ。班長は持ち回りですから、ご主人が仕事が忙しくて居ないので、奥さんが出てきたり、総会の時などはそういうことが結構多いみたいですね。町内会も本当に加入率が減ってきて、これがまたコミュニティという部分で、私どもとしても大変危惧しているんです。

### 畠山

若い人たちが町内会などに参加して、例えば小さな子どもの相手をするとか、私が小学校の頃はラジオ体操に来るのはだいたい小学生なんですよ。それで地域の年配の方が、前で体操しているのですが、私たちの世代、若い世代が少しでも町内会に足を踏み入れ、ラジオ体操や町内会活動を通じて身近に感じてもらえたらいいと思います。

今の世の中を小学生の目から見ると、町内会で自分たちの相手をしてきているのは、高齢者しかいないと感じてしまうかもしれないです。30、40歳代の方は仕事に追われていて余裕が無いです。だから、高齢者の方や女性に相手をしてもらうことが、当たり前と感じられてしまうのかなと思います。仕事が忙しいので男性はなかなか参加できないという話もありますが、少し早起きしてラジオ体操だけでも参加するというように活動すると、小学生や子どもの中で、町内会、人と人とのつながり、コミュニティという意識が少しずつでも育まれていくのではないかと思います。

### 市長

本当にそうですね。若い人にも、例えば町内会に入会してくださいとか、地域のいろいろなイベントに参加するように積極的に声を掛けていくというのが非常に大切です、若い人もぜひ積極的にそういう場に参加していただけたらありがたいと思います。

### 畠山

私たちは大学の活動を通して男女共同参画塾があることを知りましたが、他の大学生や私たちの年代の人などは、恐らく広報誌を見ていない、あるいは広報誌があるのを知らないかもしれません。一応市では、そういう催しがありますよというのは広報誌に掲載してお知らせはしているのですが、うまく若者に伝わっていないようです。やはり、そういう意識を持った人たちが少ないので、その辺をもう少しうまく具合に伝えることができればいいですね。

### 市長

私ども行政も、若い人たちが読むような雑誌やフリーペーパーなどにも、例えばごみの有料化のお知らせですとか、いろいろと若い人にも特に知ってもらいたいことについてはある程度意識して掲載するようにはしているのですが、どうしても広報誌は20代くらいの人が読むことはあまり多くないのかも知れません。自分が大学生の時には町内会に入ることは考えてみたことも無かったなと思います。その辺をどうやったら地域の一員として、

若い人を巻き込んでいけるのかということでしょうね。

### 畠山

経済状況が悪い中、働く時間が長くなり、以前は夫の稼ぎだけで暮らしていたのが、今は共働きでないと生活が難しくなっているという話や、携帯電話やパソコンなどが発達してきていることにより、生活の中で余計に経費がかかるようになり、経済的にも厳しくなっているという話が男女共同参画塾でありました。

生活環境も変わってきているので、町内会に参加することですか、今までなかったことをしないと変わらないのかなと思います。少しずつ変えていかないと、いきなり女性を雇用しようと言ってもうまくいかないと思います。今の世代の家庭に共働きを進めても、きっと難しいと思うので、これから家庭を持つ人に男女共同参画の考え方などをきちんと理解してもらうことが大切ではないかなと思います。

### 林

私は22年前から旭川市内で小児科を開業しております林と申します。

今日は二点、現状ということで市長さんにぜひ知っていただきたいことと、検討に値するものであれば、ぜひ取り組んでいただきたいと思うことがあります。

一つは、小児の時間外救急の受診状況ですが、旭川市における時間外の救急の受診が平成13年で約1万6千件なのですが、平成18年には2万2千件で、ここ5年間で6千人ほど年間の時間外受診者数が増えています。子供の数が減っているのにこういう状況にあるわけです。しかも今年は4月、5月の時点で平成13年度の状況に比べると倍近くの時間外の受診があり、正直これは救急をしているのではなくて、時間外診察をしている状況です。これが及ぼす影響が大変大きいのですが、この時間外受診を減らすため、先ほどみなさんがおっしゃっていたような、家庭でのいろいろな力とか、かかりつけ医がきちんと存在して予測外の受診が起きないということ、日頃からの健康教育など、いろいろなところが関わって、子どもの親になるまでの間に十分できる教育を医師や家庭を通じて推進していただきたいなと思っています。こういう現状は認識しておいてほしいと思います。

もう一つは、市立病院の中の女性専門外来ですが、そちらの先生とお話しする機会がありまして、現実問題として専門外来を受診する多くの患者さんは、もうすでに内科や外科や精神科などいろいろなところで検査を受けて、そして外科的にも問題はなく、精神科領域の問題でもないというような相談に来られた患者さんは、その人自身の問題というよりは、取り巻く家族とか子育てとか、取り巻く環境の問題で悩んでいる方がすごく多いんですね。ただ、その方たちを受け入れたり、サポートしていきたりするような場所がないというところがすごく問題ではないかと話していました。女性相談という窓口が旭川市にあります。実際それがうまく連携できるような形として機能しているかどうか、女性に関する相談窓口がいくつかありますが、自分がどの窓口に行けば適切に対応してもらえるのかわからなくて、まずそこで二の足を踏んで相談できない。自分が傷ついたり苦しんだりする前に、そういう方たちが十分ケアできるようなシステムや受け皿というものを考えていただきたいなと考えました。特に少子化は問題です。旭川市は医療資源が豊富なところなので、疲弊する前に旭川市の中で枠組みをもう一度考えていただきたいなと思いました。

### 勝浦

一週間前にNHKのクローズアップ現代という番組で、首都圏でまったく同じ状況で緊急の人が受け入れられないというものの背景を探ると、やはり若いお母さんたちが明日の朝まで待たない、今すぐ夜中に診てもらわなければ気が済まないということが背景にあって、今お話しにあったような同じ状況が全国各地で起きているというレポートがありました。それで、旭川でもそういう状況だということですが、やはり林さんがおっしゃるようなプレママ教育など、旭川でもやっていますよね、親と子の教育とか。そういった場を通して、そこら辺の教育というか認識をしっかりと教えてあげるといったことも必要かなと思いました。

### 市長

全国的な傾向なんですね。わかりました。お母さんになる人に対してのいろいろな指導などですね。母子手帳の交付時に、いろいろ子育ての部分での知識や情報を提供することで、もう少し工夫が必要かもしれませんね。いろいろ考えてみます。現状を認識させていただきました。

### 林

旭川市で発行した「子育てガイドブック」は大変充実した内容になっていますが、逆にメニューが豊富すぎると思います。生まれて1年から2年の間に起きること、お母さん同士がコミュニケーション取れるようになってから知りたいこととはまったく別々なのに、それが6歳分全部盛り込まれているようなものになっています。

お母さんたちに確認しますと、例えば病児保育一つとってもお母さんたちにとっては情報は手元にあるんですけども、それを開いてないんですよ。ですからその時に必要なことが適切な時期に教えられないと情報にならないっていうことなんだろうと思います。もう少しシンプルでもよいと思います。

### 市長

そうですね。いろいろ工夫できることはあるでしょうね。いろいろと工夫してみます。

### 遠山

旭川大学二年生の遠山と申します。野球部に所属しています。

私はあまり難しい話はわかりませんが、私が思うに旭川は元気がないという感じがします。それにはもっとスポーツを使ってもいいのではないかなと思います。例えば〇〇高校が全国大会に行ったとか、そういうことをもっともっと市役所が宣伝すると、それを目指す子供たちだっていっぱいいるわけですし、それを応援しようという人たちだっていっぱいいるし、先ほど言っていたコミュニティにもつながるんじゃないかなって思います。春、私の大学の野球部が全国大会に行きました。それでスカイパーフェクトTVで放送されることなど、そういうことを宣伝していただければと思います。

最近の子供たちを見ると、外で遊んでるといっても携帯ゲームを持ってるだとかカードを持ってる子供たちしか見ないんですよ。私は外でずっとサッカーや野球をしてきましたが、そういう施設も旭川にはないと思いますので、増やしてください。

### 市長

スポーツでまちを元気にしようというのは、本当にダイレクトに人の感情に入ってくるものだから、それはいろいろな部分でもっともっと工夫していかなくちゃいけないね。スポーツ設備についても、市内にもいくつかあるんですけども順次時間はかかるんですけども拡大して行かなければと思います。

### 岡本

岡本と申します。こんばんは。

私は昨年6月に結婚を機に旭川にやってきました。それまでは生まれも育ちも東京でした。旭川市のことをもっと知りたいと思い、4月から広報委員に応募させていただき、現在は広報委員で2か月に1回の委員会に参加させていただいております。その時に男女共同参画塾のことをお聞きして、1回だけでしたが参加いたしました。感想といたしましては、やはり長く住んでいらっしゃるご年配の方のお話だとか、昔の旭川はどんな感じだったとか、そういうお話を伺えたりだとか、若い学生さんたちが今どういうことを考え、取り組んでいるかなど、話を通してコミュニケーションが取れて良かったなと考えています。

今、私はまちづくり、特に教育関係の仕事についていたこともあり、子育てについて興味

があります。先ほど林さんからもお話のあった「子育てガイドブック」も見させていただき、実際に自分が住んでいた東京とどう違うのだろうかとか、そういうことにも興味を持ってはいたのですが、旭川のNPOサポートセンターで子育てポータルサイトを作るといってお話があったので、今そこで仕事をさせていただいております。スタッフ3人で旭川の公園を回り、遊具やトイレの環境、授乳室、ベビーベッドがあるのかなどを見て回ったのですが、この近辺ですと常磐公園にベビーベッドはあるのですが、蜘蛛の巣がはっていたり、空き缶が置いてあったりとか、もし私が親だったら、ここではちょっとオムツを替えたくないなというような状態です。もう少し公園の公衆面がきれいだったら、お母さんたちも子供を公園に連れて行ってオムツを替える時に、そういった不安を覚えずにできるんじゃないかなと感じました。

私が一市民としてできることは、やはり市長も子育てしやすいまちづくりということで掲げていらっしゃったので、ぜひとももっともっと子育てしやすい環境ができればいいなということと、そういったNPOの仕事を通して私も少しでもまちづくりに参加できればいいなと思いました。

### 市長

いろいろな部分でお世話になってありがとうございます。ぜひお母さんの立場から、市にもいろいろな提案、提言をしていただけたらと思いますので今後ともよろしく願います。

### 今川

旭川大学4年生の今川と申します。

私はこの大学に入る前に、旭川大学の女子短大で2年間介護の勉強をした後に3年生から編入し、男女共同参画について学ぶ機会をいただき参加させていただいております。

介護の勉強をしていて感じたことは、まず介護の仕事は重労働なのですが、実習などに行っても男性の職員が少なく、また求人を見ても、給料がとても安く優遇されていないという印象を強く受けました。私の友人たちも介護の仕事をしている人が多いのですが、女性ばかりなので寿退社がとても多くて職員が足りない、夜勤が多い、ローテーションがとても激しくて、有休はあるけれどもとても使えないという状況らしいので、その働いている環境を整えることと、男性職員が少ないという点で、女性の力だけでは事故が起こったりなども考えられるので、給料を上げるなどして男性職員も働きやすいような環境づくりがなされていくといいかなと思っています。

### 市長

介護職員の給料が安いということは、今旭川だけでなく日本全国ですごく問題になっており、厚生労働省が是正に向けて取り組んでいるんですね。私も市長になる前に、介護老人保健施設の役員をしていました。120人ほど入所しており、デイサービスで毎日40人ほど通っている所だったのですが、職員の給料が安く、非常に重労働で人のローテーションがすごく激しいんですね。そのような状況ですから募集してもなかなか集まらないという現状であるという認識は持っています。これからお年寄りももっと増えていくので、介護、医療関係の職員はますます必要になってくるんですね。待遇改善ということは真剣に考えていかなければいけないなと考えております。

### 潮

潮まどかと申します。よろしく願いいたします。

私は今二つの女性の奉仕団体に所属して、これまで通算25年くらいボランティアを通じて旭川市のいろいろな行事に参加する機会をいただきました。その間、旭川市のいろいろな委員会や懇話会などに参加してきましたが、女性の参加が数合わせ、例えば12名のうち10名が男性で、2名くらいは女性にしておこうかというような数合わせの状況が変わっていないなと感じることが結構あります。

旭川市は、長い間スウェーデンやフィンランドなどのいわゆる北方圏という海外の国々といろいろな交流があったわけですね。そういう福祉先進国から旭川市が学ぶこともたくさんあったのですが、そういった北欧の国は男女共同参画という意味でも非常に先進国だと思います。せつかく気候風土も似ているのですから、日本の中でこの旭川市がいわゆる男女共同参画の問題でも先進地を目指してもおかしくないなと常々思っているのですが、ぜひ福祉だけでなく、そういった政治の中の仕組みも率先して学んで実現していただきたいと思います。

子どもがいる立場から考えると、先日参画塾に参加させていただいて、若い方がとても増えていたことに驚いて、旭川に住んでいる人間としてうれしく感じたのですが、ここにいる若い女性の方々は、多分生まれてから一度も女性だということで引け目や負い目を感じたりすることなく育ってきた世代だと私は思います。でも、これから社会に出られた時に、初めて女性であるということで様々なハンディや言われなき壁に当たっていくのではないのかなというふうに思っております。それでぜひこの旭川市というところを好きにならずと暮らしていただきたいなと思いますので、先ほどもお話ありました少子化ですとか、旭川市は産婦人科医も確か札幌圏より多いはずですので、正直本来は産みやすく育てやすいまちでなければならないと思うんです。そういった意味でぜひ市の方で例えば民間企業を少し応援していただいて、産みやすく育てやすく、また暮らしやすいまちという、若い人たちも好きになってくれるまちづくりにぜひしていただきたいなというふうに思います。

#### 市長

今のお話をお聞きして、女性の立場、目線からでないと感じない見えない社会の何かいろいろあるのかなと思いました。生活交流部の羽佐間次長も女性ですし、またいろいろと私も教えてもらいながらがんばっていきますので、よろしく願います。

#### 勝浦

旭川市が男女共同参画の推進の先進地を目指してもいいのではないかとありますが、自治体の中には男女共同参画宣言都市となっているところもいくつかあったと思います。もし旭川市が男女共同参画が日本一進んでいるまちというふうになると、本当にいろいろな人が移住してくるでしょうし、まちの大きな売りになるのではないかなと思いますので、ぜひそのようなことを希望しております。

#### 市長

今、国内で男女共同参画が一番進んでいるということで有名な都市はあるのですか。

#### 勝浦

男女共同参画宣言をしている都市はいくつかありますが。

#### 市長

現状、飛び抜けてというところには至っていないんですかね。宣言している都市はあるということですね。

#### 上村

学校職員をしております上村と申します。

私は10年前に男女共同参画塾に参加して、またこうして最近参加しているのですが、やはり男女共同参画ということで事業をされていて、ここ旭川市が男女共同参画と本当になっているかどうか、そういう検証をしてもらいたいというのが一つあります。

それとニートとなる原因についてですが、個人の問題ではなくて、若い人を大事にしているということだと思います。旭川は不況だからといってサービス残業などでいだけ若い人を安い給料でこき使ってるのではないかなと思います。そうであれば男の人の育児休

業ももちろんそうですし、女の人自身が長時間労働だったり、安い給料で生活が安定していないところで子どもを産もうなんて思いません。まず女の人がゆったり仕事をしながらでも子どもを産みたい、家庭を持ちたい、もちろん男の人仕事ばかりでなく、子どもを持ちたいだとか、町内会に参加したいとかというようになるように、そういうところを重点的にやっていき、全国的に不況だから競争に勝たなければといったところで並ばないで、逆に経済はそこそこいいので、皆がそこそこ暮らしていけるような、それが男女共同参画の社会ではないかなという視点で市政をしてもらいたいと思います。例えば市役所を見ても、女性の管理職が少ないという現状があり、既成の概念で男社会だったところで市も回っているのではないのかなと思いますので、そういったところも新しい市長は若い考え方をお持ちですので、見直していただきたいなと思っています。

### 市長

非常に新鮮なご意見をありがとうございます。旭川市のみならずつい景気を良くしたいということでそのようになりがちなんですけれども、やはりちょっと後ろを振り返り、また違った良さを発見して、そこに行政の光を当てて政策としてふくらませていこうともっともって考えていかなければなりませんよね。

### 松本

旭川大学3年の松本と申します。

私は男女共同参画塾に参加して、3回目では勝浦さんがコーディネーター、私はパネリストという形で参加させていただきました。私が参画塾に参加して感じたことが何点かありました。その一つは気付くということと自分を見つめ直すということなのですが、私は他に「(仮称)旭川市安全で安心なまちづくり条例検討懇話会」に参加させていただき、また障害を持った子どもたちに対するボランティアもしているのですが、そのような活動の中で、まず一つはボランティアは楽しいんだということを今まで全然知らなくて、逆に偏見を持っていたんですけれども、やってみたらすごくおもしろい、また自分が必要とされることに対して喜びを感じることを学びました。「安全で安心なまちづくり条例」の懇話会では、自分の力のなさというのを痛感したの同時に、いろいろな活動、まちづくり、男女共同参画を考えるに当たってすごく勉強になるなと気付きました。

また、すごく大事だと思ったのは自分を見つめ直すということで、私は今まで男女共同参画という考え方を自分は肯定している人間だと思っていたのですけれど、改めて自分を見つめ直してみると、例えば少し重たいぐらいの、女性でも持てるぐらいの物でも、誰かに持ってきてもらおうと思ったら絶対に男性に頼みますし、また逆に何かを拭くだとかきれいにしてもらうなどは女性に頼んでしまうということを自分はやっているんだなということに気付きました。私はそういうことをみなさんにも見つめ直す機会をもっともって広がるようにやっていきたいと思うし、そうやってほしいと思うので、ぜひ普段そういうことを意識していない人たちに向けての啓蒙活動などをぜひ市長にもお願いしたいなと思います。

### 市長

そういう部分で無意識のうちに行っているということはありませんよね。レディファーストということもありますよね。あれは欧米から入ってきた習慣なんでしょうけど、私も詳しくないのでわからないんですが、あれはどういう理由でレディファーストなんでしょうね。発祥は何なんでしょうね。

### 潮

あれは全面的に女性は弱いものだという考えですね。女性を大事にしようという考えではないですね。今はそれでいい思いをしているのかもしれないですけど、根本は女性を大事にしようということではなく、男性は強いもので女性は弱いからということですよ。

### 原田

ボランティア仲間からこれだけはぜひ言ってきて欲しいと言われたことがあります。

私は、図書館のボランティアの二つに関わっており、一つが「素語りの会」という、お話を暗記して子どもたちや大人たちに聞かせるというものと、もう一つは絵本の読み聞かせですが、関わってみますと図書館はお金がないので、たとえ活動で使うものであってもコピー代も一切出ませんよと言われていました。他のところではあり得ない話です。ほとんどのみなさんは本を自分で買ってアクセントとかひらがなとかをふったりしますので、お金がないとできないボランティアになっているんですよね。少なくとも、コピー機だけは使えるような形にしていだけないかという切実な願いがあります。

もう一つは、他都市の図書館を見てこられた方から、「旭川の図書館は休みが多すぎる、夜間閉まっていることが多すぎる、こんなに閉まっている図書館は他にない」と言われました。また、「ばく書」ですが、他都市では開館しながらばく書をしているのに、旭川の図書館はそのために休館します。それも7月末の夏休みで子どもたちが一番行きたい時期に図書館を休館します。これについてはぜひ市長にお話ししてきて欲しいと言われましたので、お願いします。

それから意見箱も置いて欲しいと言ってました。図書館に対する要望の箱はないそうですね。

## 市長

いろいろ調べてみて、改善できる部分は改善したいと思います。

## 日向

私はグループホームで介護の仕事をしており、高齢者のお宅を訪問していますが、ごみの処理を自分でできない方が多いです。訪問は一週間に1回程度で毎日ではないので、私たちが訪問した時にはごみを出せませんが、曜日によってはなかなかそれができないことがあります。また高齢者の方はごみの出し方をなかなか理解できないので、私たちが「この日はこのごみね」と教えるのですが、もう少し高齢者に対して優しい工夫をしていただけないものかと思います。

先ほどから話に出ているボランティアの問題ですが、ボランティアの受け入れ先が考えている適性な方でないといけないという所もあると思います。誰でもすべて受け入れるというボランティアはそうそうないと思います。私は聴覚障害でかなり関わっていますが、手話ができなかつたら来てもらっても困るということがありますから、必ず「手話サークル連絡協議会旭川三親会」という組織にお願いして活動するしかないという状況です。ですからボランティア、ボランティアとみなさん簡単におっしゃいますが、専門的な部分もありますので、ボランティアの受け入れの全ての窓口が広くなればいいという問題ではないので、その辺の誤解はされない方がいいのではないかなと思います。ですが面接があるのであれば、どうしてそうなのかをみなさんに教えてあげることも必要だと思います。市長に何かお願いをするわけではありませんが、やはりもう少しわかりやすい情報公開というのが必要だと思います。

## 市長

一人暮らしで外にごみを出せないような高齢者宅まで行って個別にごみを収集する「ふれあい収集」を行っていますが、高齢者のみなさんからは、ごみの分別の仕方、出し方が非常に難しい、ややこしいという話は聞きますね。

## 日向

私たちも大変ですので、もう少しわかりやすくなるといいなと思います。

## 市長終わりのあいさつ

みなさんまだまだお話しされたいことがあったとは思いますが、限られた時間で申し訳ございません。私も今日のみなさんとの話で、ある面みなさんに教えられたことが多かった



と思います。世の中の流れは男女共同参画の方向に向かっていっているわけですから、私も一生懸命勉強して、また市としても流れをより太く確実なものにできるように、今後とも鋭意努力していかなければならないと改めて認識させていただきました。

また、いろいろな提案をいただいた部分で、比較的すぐにできるようなものもあるでしょうし、また時間がかかる、非常に長期的な視点で取り組まなければならないような課題もあったのかなという感じであります。

今日お聞きすると皆さまはいろいろな部分で市に携わっていただいて、日頃から大変お世話になっている方々でございます。今後ともいろいろな分野からご意見ご指導いただければと思いますのでよろしく願いいたします。

一言ですけれども今日の対話集会が非常に有意義に閉めることができました感謝をいたしたいと思います。また今日は若い大学生のみなさんにもたくさん来ていただけてますが、ぜひこれからの日本の社会をいろいろな部分でみなさんの先進的な考えを取り入れて、この社会がもっともっと暮らしやすい社会にしていくことができるようにいろいろな部分からお力添えをもらえたらと重ねてお願いいたします。簡単ですけれども私からのお礼のごあいさつとさせていただきます。今日は本当にありがとうございました